

2005年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、東シベリアからベーリング海付近で+60 m以上の正偏差がみられた。また、ユーラシア大陸から北太平洋にかけては帯状の負偏差域がみられ、日本付近は全体的に負偏差に覆われた。

850 hPa の気温は、ロシア西部や東シベリアでは500 hPa 高度場と対応して正偏差が明瞭にみられた。アラスカ付近では負偏差がみられた。また、日本付近では東日本を中心に弱い負偏差がみられた。

熱帯の対流活動は、インドネシアから太平洋西部にかけて平年より活発、日付変更線付近では平年より不活発だった。ニューギニア島から南東にのびる南太平洋収束帯 (SPCZ) では平年より活発だった。また、インド洋赤道付近は平年より不活発だったが、アラビア海からインド南部ではスリランカ付近を中心に平年より活発だった。前月は活発だったカリブ海は、ほぼ平年並に戻った。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、前月と同様にインド洋の南北両半球で低気圧性循環偏差がみられ、インド洋赤道付近は全域で西風偏差となった。太平洋でも前月と同様に南北両半球に高気圧性循環偏差がみられた。太平洋赤道付近は西部、中部、東部すべてで東風偏差となった。この傾向は過去3か月間続い

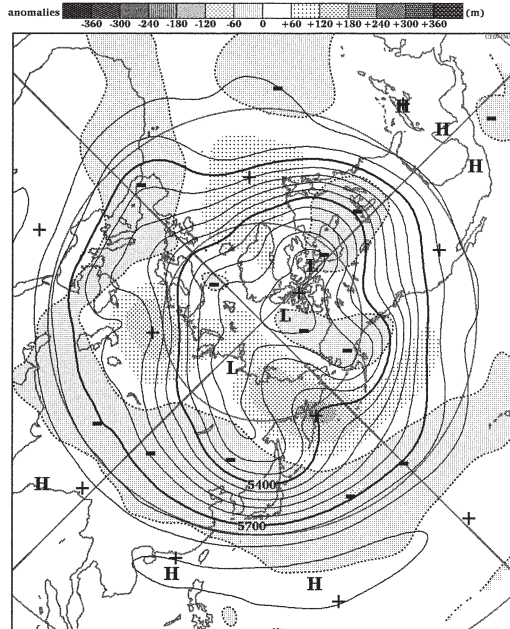
ている。

SOI (南方振動指数) は-0.3となった。

世界の天候

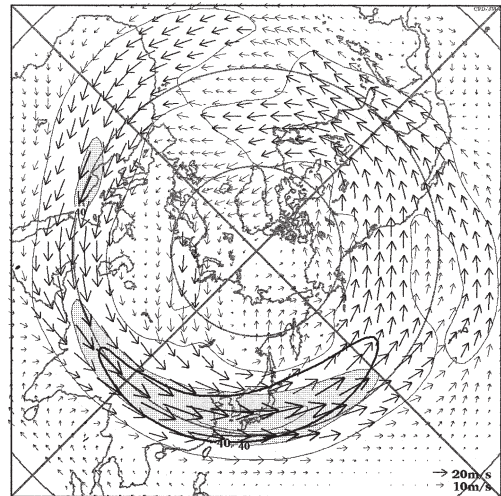
- ① 東シベリアの高温
- ② モンゴル東部から中国中部の少雨
- ③ 中国東部からベトナムの高温
台湾のタイペイ (台北) では月平均気温が23.2°Cとなった (平年: 20.2°C)。
- ④ 西シベリア南部からカスピ海北部の少雨
- ⑤ ロシア北西部からスカンジナビア半島の高温
- ⑥ アフリカ北西部の多雨
モロッコ沖のスペイン領カナリア諸島で下旬、トロピカルストーム「デルタ」の通過により7人が死亡したと伝えられた。
- ⑦ ギニア湾周辺の高温
- ⑧ ハドソン湾から五大湖周辺の多雨
- ⑨ ベネズエラの多雨
- ⑩ 南米赤道付近の高温
- ⑪ ミクロネシアからメラネシア東部の高温

(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 村上喜章)



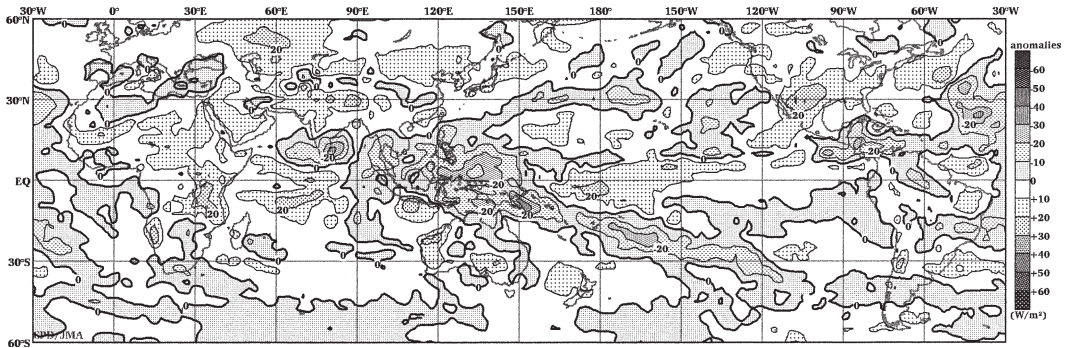
2005年11月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

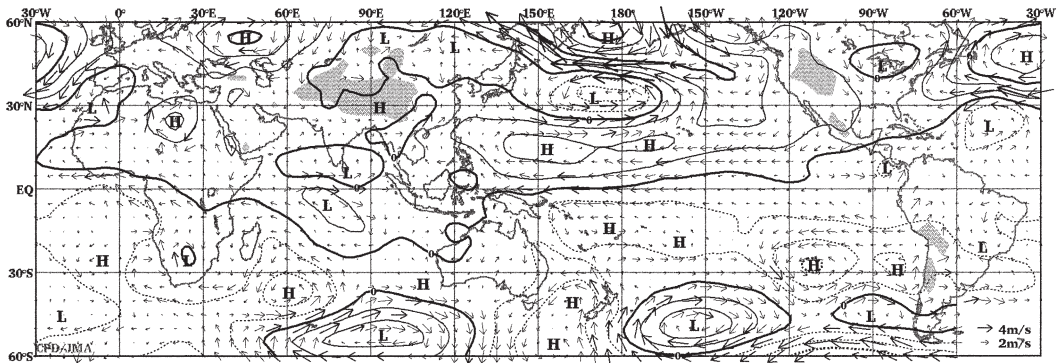


2005年11月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

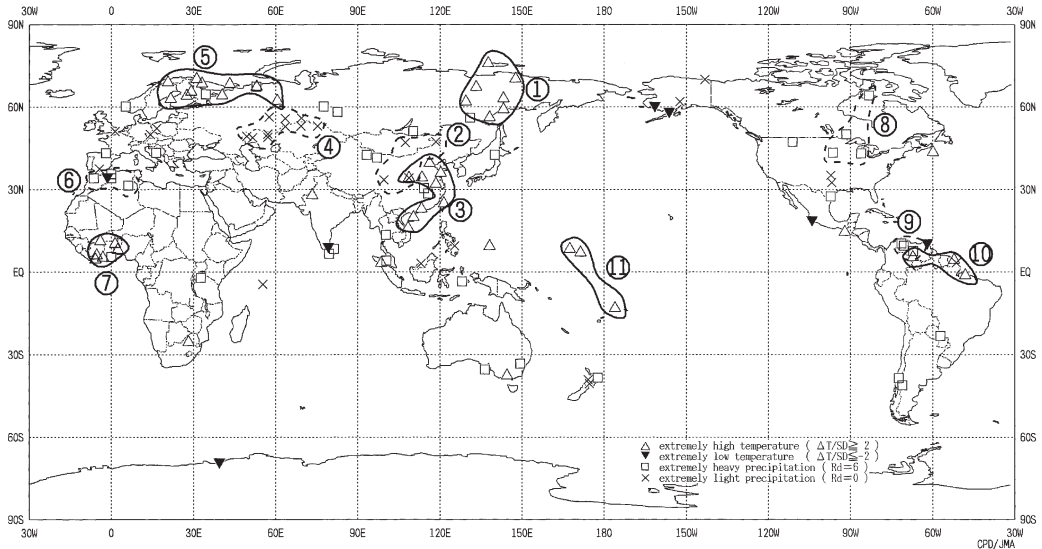
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s以上, 太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2005年11月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA、年偏差は1979~2000年のデータから作成。



2005年11月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



2005年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。